

令和7年度 第2回東峰村地域公共交通活性化協議会 議事

日時：令和7年12月15日(月)15時00分～
場所：小石原公民館大会議室

◆会長あいさつ

◆報告事項

①BRTの利用状況等について

- ・昨年より利用者数が下回る月が多かったが、秋季は昨年より上回る利用があった。
- ・11月末まで釈迦岳トンネルで星空イルミネーションが浮かぶ上がる車内ラッピングを実施していたが好評であった。
- ・12月14日から任天堂のスーパーマリオとコラボして、ラッピングを施したBRT車両の運行を開始している。出発式は12月13日に実施した。
- ・利用割合としては概ね観光利用6割、日常利用4割に変わらない。
- ・日常利用を増やしたく、地元の方の認知度を上げるため地元の祭り等でBRTの展示や絵を描いて飾る等を行っている。

委 員) 駅ごとの利用者数を出すことはできるのか。

事業者) 調べようとすれば調べられるが、現時点ではそこまで数値を出していない。

委 員) インバウンドで海外の観光客が増えている。地方では多言語のガイドブックがないか尋ねられるそうだが、駅構内やBRT車内等に設置はしているか。

事業者) パンフレット等は観光地を訪れる前に必要であり、現地はスマホで情報を集めると考え、構内等にはQRコードを用意している。車内には観光情報より乗降方法を英語表記でお知らせすることが主になっている。

②東峰村乗合タクシーの実績報告について(資料1～資料3)

- ・利用実績について資料1にて報告。
- ・通過時刻について、資料2にて報告。積雪や路面凍結による運行の遅れを考慮し、朝便のみ小石原庁舎6時10分発としていた時刻を5分早め、6時5分発とする。他の時間帯においても遅れが生じる可能性はあるが、交通事業者とも協議を行い、特に凍結等の影響が出やすい朝便のみ調整を行うことにし、今月1日から令和8年3月31日までを冬季期間として運行を行う。
- ・回数券について資料3にて報告。利用者より毎度小銭を用意することが大変との声があり、回数乗車券を販売する。既にシニアカード等にて割引は行っているため、この回数券に対して割引率を付与することはせず、あくまで支払の手間を減らすことを目的として導入する。販売は、乗車された車内のみで、18日に交通事業者と最終確認を行い、12月22日から販売開始予定。

委 員) 登録者数の年代別割合を年度ごとに示しているが、7年度分を6年度分に足すということではよいか。70代の登録者が減っているように見えるが、上積みしていったということではよいか。登録の取り消しはされているか。

事務局) 年度ごとの数値となるので足してよい。利用ニーズが高い70代以上の方は昨年度までに多く登録があり、今年度下がったように見えている。個人でアプリから登録した方が消すということはある。

委 員) キャンセル率について、昨年度より下がった理由はなにか。

事務局) 利用に慣れ、行先や時間の予約誤りが減ったため、下がったと考えている。

- 委員) キャンセル数は、ユーザーからキャンセルしたいと申し出があった件数のことか。
- 事務局) ユーザーからの申し出の他に、乗客が現れずキャンセルした場合等も含んでいる。
- 委員) 利用者目線から、何か意見はあるか。
- 委員) アプリを入れてみて予約して便利と感じたが、高齢の方には操作が難しいと思う部分があるので電話が多いのではないかと思う。
- 委員) 交通全体を所管する受け皿があり、アクセスすることで交通モードを紹介してもらえるような取り組みはあるか。
- 委員) 日本バス協会で自社のサイトに情報があるものをリンク集として一括して情報を集め運営するサイトがある。
国と民間が協力して、時間が決まって動く定時定路線の路線については管理して情報を出そうという動きはある。
- 委員) 通学定期券の割引はどのくらいか。また、販売する期間の設定はあるか。
一般向けの定期券を導入する考えはあるか。
- 事務局) 平日22日間の往復利用と仮定した際の金額に対して、3割負担としている。申請期間としては、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月を設定している。一般向け定期券については、移住等も考える中で、通学の不具合があると影響が大きいと考える中で通学用定期券の導入をしたため、現時点では導入の検討はしていない。

◆協議事項

①自家用有償旅客運送者の更新登録の申請について(資料4)

- ・登録中の自家用有償旅客運送の期限が令和8年3月5日で切れるための更新申請である。現状のとおり更新を行うと、次回更新は3年毎となる。現状の運行体制ではタクシー事業者には運行管理、車両整備、運送手配サービスを委託しており、5年毎更新の事業者協力型自家用有償旅客運送への登録も可能であるため、今回の登録申請の際に、事業者協力型で申請を行う。

委員) 更新は元来2年と決まっていたのか。制度の更新はするが、運転手として登録されている方との兼ね合いはどうなっているか。

事務局) 更新期間は当初から定まっていた。運転手の更新は、一度受講後に再講習を受ける必要は制度上必要ないこととなっているが、講習の実施については交通事業者とも情報共有を図りながら検討していきたい。

②地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の事業評価について(資料5)

- ・令和6年度(R6.10.1~R7.9.30)事業について補助金交付申請する際に、協議会にて事業評価を行う必要がある。

委員) 評価にABCがあるが記号の考え方はどうなっているか。また、⑤目標・効果達成状況の利用者数の考え方はどうなっているか。

事務局) ④事業実施の適切性の評価基準について

- A: 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された
- B: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった
- C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

⑤目標・効果達成状況の評価基準について

- A: 事業が計画に位置付けられた目標を達成した
- B: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった
- C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

評価期間における資料1の乗客数を足した数を利用者数としている。

委員) 収支率7%の根拠は。

事務局) 令和5年度に策定した東峰村地域公共交通計画策定時のKPIを引用している。

利用者数のKPIである日当たり乗客数20人を達成した場合の収支率。

利用者の50%が半額運賃、50%が通常運賃と想定。

経費：運行委託費＋コールセンター委託費＋AIシステム費＝23,480千円

収入：運賃収入1,643千円

$1,643 \text{ 千円} / 23,480 \text{ 千円} = 6.99 \dots$

・①及び②について、申請を行うということについて承認。今後は事務局にて対応する。

◆その他

①東峰村シェアサイクル導入実証事業について

委員) 目標値はあったのか。無かった場合、本格導入の判断はどう行うのか。

事務局) 目標値は決めていなかった。判断は難しいが、利用状況、費用、補助等を確認しながら検討していきたい。

委員) どのような人達に使って欲しいのか、バイクの性能はどうするか、どのターゲットに販促を掛けていくかなど、今後補助金申請時等においても目標値は設定した方が説得力は増すので検討して実施した方がよい。

②各機関からの報告事項

委員) 高齢者のアプリ予約は難しいが、他所から来た方はアプリがあって便利という声も聞く。利用が多い村内高齢者の方の意見をもう少しどうかならないかと思う。

料金未払いで後日支払う等のことがあったので、料金前払いとするようにした。

AIがなかなか学習してくれない。

委員) 利用者が増え、運行回数が上がっていると実感がある。回数券導入を先あたって話をした時には小銭準備が楽になると導入を心待ちにする声もあった。

電話予約とアプリ予約で急な予約があるが、対応はできている。

委員) 小石原地区はイベントがあると混雑する地域なので、公共交通と連携できるとよい。

委員) AIが勉強するのに凄く時間がかかると言われているので、今後勉強していてもらい、一定の効果が見えてくるとよい。乗合率の向上について、乗合であるが乗合が増えない現状を事務局は真摯に受け止めてもらい、どうしたら向上するのか協議会の場でしっかり議論してもらうことでよりよい公共交通になっていくのではないかと思う。利用促進策としてイベント時に公共交通を使うとスムーズに來れるというインセンティブを付けるやり方もある。警察と連携することも公共交通の一つのあり方と思う。

委員) 運送能力を超える乗客が居た際に一人一人を別個に運ぶのではなく一緒に運べばいいというのが基本的な乗合の考え方だと思う。客のニーズが少ない時に乗合率を高くするというのは、本筋が違い、その場合は乗合率1.0で問題無いと思う。乗合率ばかりを追うのではなく、仮に乗合率を高めるのであれば、運動能力をコントロールするか、乗客数を増やすとか色々手段はあると思うが、適切な手段を取ると良いかと思う。

AIはそれ相応のデータが無いと学習が出来ないとなると、本当に地域でAIオンデマンド交通が必要かどうか考える必要はあるかと思う。地域に適切なサイズ感の能力のシステムを導入することは長い目で見ると検討の余地があるのではと思う。

委員) 協議会の実施について、協議内容が事務的なものの時は書面会議も取り入れながら、委員の負担軽減と効率化に努めていく検討を行おうと思っている。次年度の計画が立ったらご案内しようと思う。